

し幸いなことに、 Δt はこの比の対数で表わされるので、 $(^{129}\text{I}/^{127}\text{I})_0$ 比が 10^{2n} 倍変わっても、 Δt は高々 $2n$ 倍しか変化しない。典型的な隕石の $^{129}\text{Xe}_r/^{127}\text{I}$ 比 (1.1×10^{-4}) に対して、連続的元素合成を仮定した場合、形成期間は 6000 万年になる。他方、一回の超新星爆発による元素合成を仮定すると、 $\Delta t = 1$ 億 8000 万年となる。このように ^{129}I - ^{129}Xe 法によって、隕石の形成期間は、ほぼ 1 億年前後であることがわかる。

これに対して、特定の隕石を基準にした相対年代を正確に決めることができる。基準とする隕石 (Bjurböle 隕

石がよく用いられる) に対する相対年代は、(2) 式から

$$\Delta t - \Delta t_B = \frac{1}{\lambda} \left[\ln \left(\frac{^{129}\text{Xe}_r}{^{127}\text{I}} \right) - \ln \left(\frac{^{129}\text{Xe}_r}{^{127}\text{I}} \right)_B \right] \quad (3)$$

ここで添字 B は基準隕石 Bjurböle を表わす。

図 4 は約 30 個の隕石の相対形成期間である。図 4 に示した隕石の種類はいろいろで、隕石のほとんどの種類を網羅している。ほとんどの隕石が、今から約 46 億年前の 3000 万年程度の間、ほぼ“同時”に形成されたことがわかる。

お知らせ

東京天文台助手公募

東京天文台では次の通り助手 2 名を公募します。

東京天文台長 古在由秀

所属・人員：木曾観測所に勤務する助手 1 名

分野および仕事の内容：シュミット望遠鏡による天文学の研究および観測・測定システムの開発など

応募資格：大学院修士課程修了相当以上

提出書類：履歴書、論文リストおよび別刷（共著の場合は分担した役割を明記）、研究上の抱負（簡潔に）

公募締切：1982年7月15日（木）必着

宛先および連絡先：〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1
東京天文台 山下泰正

その他：封筒の表に「木曾観測所助手応募書類在中」と朱記すること。

所属・人員：野辺山宇宙電波観測所、助手 1 名

分野：電波天文学

仕事の内容：観測装置・ソフトウェアの開発、および観測的研究。当面は 10m5 素子干渉計の総合調整、試験観測等に従事する。

応募資格：大学院修士課程修了相当以上。

着任時期：決定後なるべく早い時期。

提出書類：履歴書、論文リスト及び別刷（共著の場合は分担役割を明記）、研究上の抱負（簡潔に）。

公募締切：1982年9月4日（土）必着。

宛先及び連絡先：〒181 三鷹市大沢 2-21-1
東京天文台 甲斐敬造
(TEL 0422-32-5111)

その他：封筒の表に「宇宙電波助手応募在中」と朱記して書留にて送付のこと。

宇宙科学研究所助手公募

公募人員：助手 1 名

所属部門等：共通基礎研究系、宇宙空間原子物理学部門。同部門には、教授高柳和夫、助教授市川行和、助手島村勲が在任中。原子分子過程の理論的研究と、その宇宙科学への応用（必要データの収集・評価を含む）に意欲をもつ人を求めます。現在までの専門分野は問いません。

着任時期：決定後なるべく早い時期

必要書類：(1) 略歴、(2) 研究歴、(3) 論文リスト及び主要論文別刷各 1 部、(4) 他薦の場合は推薦書、自薦の場合は本人について意見を述べられる人 2 名の氏名と連絡先

締切：昭和 57 年 8 月 31 日（火）

宛先：宇宙科学研究所 所長 森 大吉郎
〒153 東京都目黒区駒場 4-6-1
[電話 (03) 467-1111]

問合せ先：不明の点の問合せ、及び資料の請求は下記あてに願います。

宇宙科学研究所 高柳和夫 内線 355

選考：選考は宇宙科学研究所運営協議員会議において行います。応募者中に適任者がいない場合は決定を保留することがあります。

その他：封筒に「助手応募（推薦）書類在中」と朱書して下さい。

さきに天文月報 74 巻 11 号に掲載し公募いたしましたのが、このたび当教室理論天文学講座助教授として

土佐 誠 氏

に決定いたしましたのでお知らせします。

東北大学天文学教室
須田和男